

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾 政策提言報告書 2019

私は少しも恐れるところがない
私はこの世界に、
何事かをなさんがために
生まれてきたのだ

＜野口 英世＞



目 次

◆ チャレンジ「新発想」研究塾とは	1
◆ 活動の経過	3
◆ 成果報告会	11
◆ 提案概要	
1班（健康福祉分野）.....	13
2班（人口交流分野）.....	14
3班（地域経済分野）.....	15
4班（I C T 分 野）.....	16
◆ Look Back 研究塾を振り返って	17
◆ Next Challenge 2020 年度予告.....	21
◆ 関係資料	22
・ 報道資料	
・ 研究塾生名簿	
・ こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱	

チャレンジ「新発想」研究塾とは

住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査

研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾研究塾（以下「研究塾」という。）を設置しています。

チャレンジ「新発想」研究塾とは

本市では、これまでも若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題解決や、職員の政策立案能力向上に取り組んできました。

2018 年度(平成 30 年度)からはこおりやま広域連携中枢都市圏(こおりやま広域圏)の

連携事業として、こおりやま広域圏の市町村職員に対象者を拡大し、今年度は、郡山市職員に須賀川市・二本松市・田村市・本宮市・鏡石町・三春町の4市2町の若手職員 12 名を加えた総勢 23 名で取り組みました。

若手職員による政策研究会の変遷

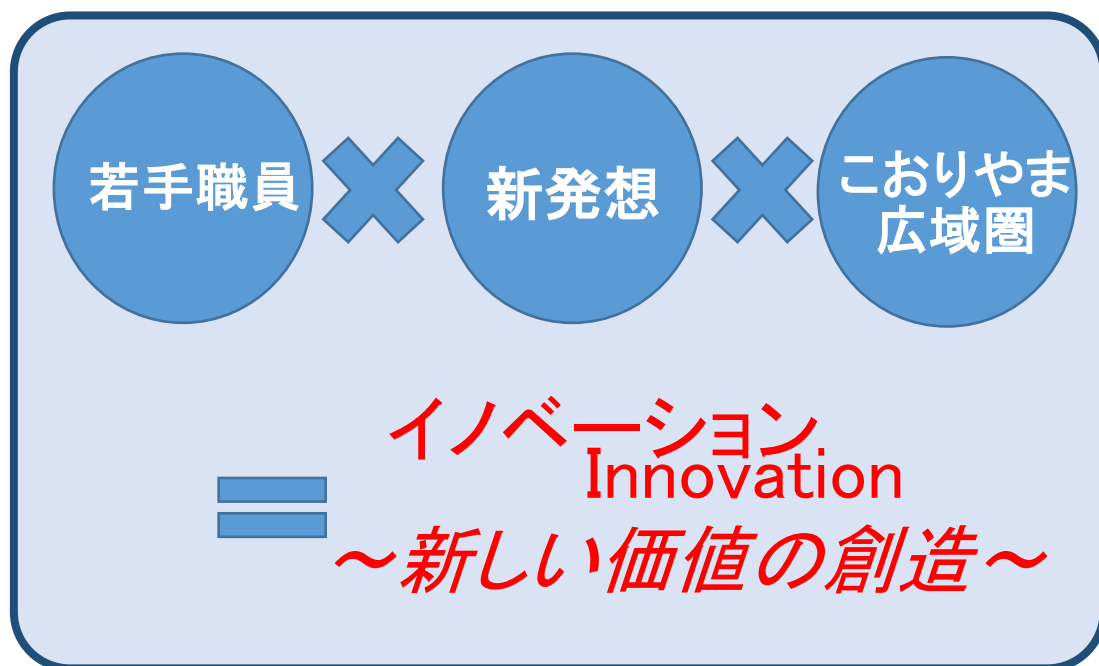
平成 8 年度～平成17年度 『きらめき21推進研究会』

平成18年度～平成24年度 『ハーモニー推進研究会』

平成25年度～平成29年度 『チャレンジ市役所「新発想」研究塾』

平成30年度～ 『こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾』

塾生の対象をこおりやま広域圏16市町村に拡大！！



こおりやま広域圏とは

こおりやま広域圏とは

郡山市と近隣 14 市町村が 2019 年 3 月に形成した
「こおりやま広域連携中枢都市圏」のことです(現在、二本松市の参加に係る手続きを推進中)。

郡山市を中心に、須賀川市、二本松市、田村市、
本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、
玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、
小野町の 5 市 7 町 4 村が協力し、それぞれの
強みや資源を生かし、人・モノ・情報が
行き交う歴史的・文化的にも
結びつきが強い地域です。



16 市町村のネットワーク

人口減少・少子高齢社会
の進展により、地域における
行政サービスの質の維持が難しくなることが予想されています。

そこで、近隣市町村が互いに手を取り合い、協力して圏域内の行政サービスを提供するなど、
「ONE TEAM 16」の精神のもと、互いに地域の良さを尊重し、「広め合う、高め合う、助け合う」関
係を構築し、圏域の皆さんが、将来も安心して快適に暮らせる地域づくりを目指しています。



活動の経過



■開講式・オリエンテーション【2019年5月】

総勢**23名**の若手職員
が**集結！！**

開講式

4月にこおりやま広域圏に塾生募集を行い、昨年度の2倍以上となる23名の意欲あふれる若手職員が集結しました。

今年度は、研究塾の規模拡大を図り、郡山市12名、須賀川市1名、二本松市1名、田村市3名、本宮市2名、鏡石町1名、三春町1名【男性18名、女性5名】に決定しました。

開講式では、本研究塾の塾長である品川市長から「デジタルネイティブの皆さんが先導し、世の中を変えることが重要。人生100年時代を見据え、将来直面する課題からバックキャストで挑戦してください！」と激励をいただき、その後、塾生から現在の担当業務や研究塾に対する意欲などを共有し、今後のオリエンテーションを行いました。



自治体・職場の垣根を越えた
政策について一緒に考えましょう

オリエンテーション

地域の先進事例を視察



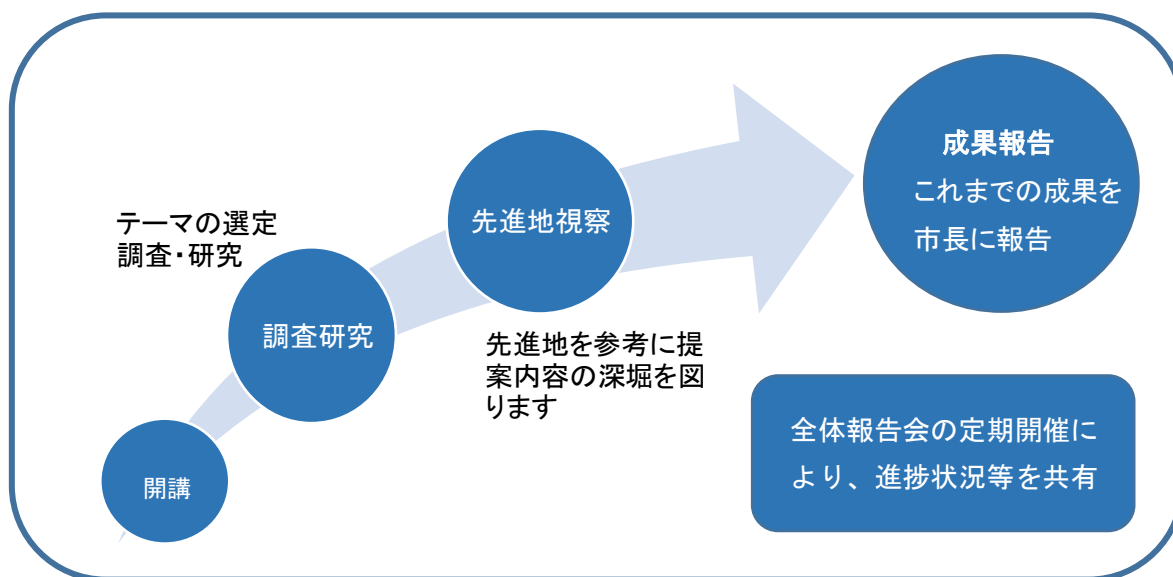
国立研究開発法人産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究所 視察

オリエンテーション前半では、郡山市内の施設見学【国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所（産総研）、麓山貯水池】を行い、様々な課題への取組を知り、視野を広げる機会となりました。

研究塾の第一歩を踏み出した



オリエンテーション後半では、事務局より今後のスケジュールや課題の抽出、政策立案の進め方などのレクチャーがあった後、各グループの班長と副班長及び本研究塾の代表と副代表を選出しました。班長には郡山市、代表には須賀川市から選出されました。



調査研究期間(5月から10月)

<基本的な進め方>

- ・基本的には週1回程度参集し討議を行います。
- ・業務の都合に合わせ、曜日や時間、開催場所など塾生が決めます。
- ・討議内容について、記録票にまとめ、進捗等を報告します。

調査研究テーマの方向性を決める



各グループは、まず具体的な調査研究のテーマ設定に取りかかりました。

こおりやま広域圏から寄せられた地域が抱える課題等を元に、様々な地域が置かれる現状を調査していくことで、お互いの興味関心を踏まえ、調査研究の方向性を決定しました。

提案内容について具体化する

次は、具体的な提案内容について検討します。課題は何なのか、その課題解決となる手法について、先進事例などを調査し、そして「こんな事業があったら面白い」と若手職員らしい『**新発想**』を追求しました。塾生は、時にぶつかり合い、笑い合い、助け合い、政策立案にチャレンジしました。



圏域内のいろいろな自治体でも開催

討議の開催場所も郡山市に限らず、本宮市・田村市・鏡石町・三春町でも行いました。田村市の廃校を活用したテレワークセンター「テラス石森」や三春町の三春交流館「まほら」など新たなビジネス等の情報発信拠点や地域の交流の場などを視察も兼ねて訪問したことで各自治体の取り組みを知る機会にもつながり、調査研究に対する視野を広げることができました。

また、討議には、開催自治体の上司や担当者の方々にも来ていただき、これまでの経験や知識からの指摘は、塾生にとっても良い経験になりました。



田村市：テラス石森



三春町：三春交流館まほら

ICTを活用した討議

業務の合間を活用しての討議であること、また、毎週各自治体から参集して、討議をすることの負担を顧慮し、テレビ会議で討議を実施しました。



先進地視察の実施(7～8月)

研究テーマに基づき、実際の取り組みを知るため、先進地視察を実施しました。視察先の選定や視察先へのアポイントなどについても塾生各自で行いました。各グループともに行

政のみならず、民間企業や団体への視察を行い、幅広い知見を深めました。さらに、この視察を通し、塾生同士の輪も深めることができました。

1 班(健康福祉分野) 行程: 千葉県 → 東京都 日程: 7/25～7/26

1班は、福島県の平均寿命と健康寿命の差が比較的大きいこと及び運動機会の減少という課題を解決すべく、本人が努力・我慢しなくても「健康になってしまう環境づくり」について、民(民間企業)・官(行政関係)・学(学術機関)それぞれの視点から先進事例を学びました。



千葉大学健康都市・空間デザインラボ

空間設計・まちづくりに健康改善の視点を取り入れた「健築」について研究。無意識のうちに健康活動に取り組める環境整備の重要性を感じた。



株式会社第一興商

カラオケの健康増進・介護予防としての効果に注目し、自治体にプログラムを展開。健康づくり＝辛いという気持ちを払拭できる非常に良いコンテンツであると感じた。



株式会社タニタヘルスリンク

健康の「見える化」により、健康への意識向上を提供。職員が率先して健康活動へ取り組むことで健康活動のお手本となっていた。



板橋区役所 健康推進課

いたばし健康プランに基づき、「栄養・食生活」「運動」分野で㈱タニタヘルスリンクと連携。自治体から住民へのPRの重要性を感じた。

2 班(関係人口分野) 行程: 滋賀県 → 福井県 日程: 8/1~8/2

人口減少問題に対し、地域に賑わいを生む「関係人口」に期待が高まっており、広域圏の豊かな環境と豊富なアクティビティのポテンシャルを活用することで、こおりやま広域圏全体への関係人口の創出に繋がることに着目。令和元年度総務省「関係人口創出・拡大事業」モデルに採択された長浜市役所を始めとした関係人口創出に関する先進地を視察してきました。



長浜市役所 総合政策課

長浜市の応援を目的に首都圏在住の長浜市出身者やゆかりのある者でチームを結成し、情報発信やツアーを企画。

関係人口創出に向けたチーム作成とシビックプライドの創出も大事だと感じた。



御食国若狭おばま食文化館

地域の特色である「食」を起点に産業振興など多様な分野でまちづくりに取り組む「食のまちづくり条例」を制定。

圏域の自然を活かした体験型事業による関係人口創出の可能性を感じた。



若狭町役場 政策推進課

都市居住者の視点から地域住民とともに豊富な里山里海湖の地域資源を活かした新たな「なりわい」づくりを目指す「若狭ソーシャルビジネスカレッジ」を開講。カレッジ等イベントにおける参加者だけでなく、運営ボランティアスタッフも関係人口につながる。また、外の地域の人にいかにも、地域イベントに関心を抱かせるか、PRが大切であると感じた。

3 班(地域経済分野) 行程: 千葉県 → 東京都 日程: 8/1~8/2

インターネットやスマートフォンを通し、人、モノ、場所などを共有し、新たな価値を創造するシェアリングエコノミーに着目。こおりやま広域圏の実情に合わせた活用による広域的課題の解決に向けた可能性を探るべく、歴史的建造物の共有など多様なシェアリングエコノミー事業を展開する千葉市役所を始め行政、民間企業の両側面から先進事例を視察してきました。



一般社団法人シェアリングエコノミー協会

全国に 17 自治体あるシェアリングシティ認定をし、シェアリングエコノミーの安全性の評価や利用者拡大に向けた普及を行っている。地域における課題やアセットを深堀し、実情に合わせた活用につなげたいと感じた。



千葉市役所 国家戦略特区推進課

民間事業者と連携し、歴史的建造物など公共資産の活用促進や民泊特区制度による滞在型余暇活動を推進している。民間事業者との調整・チャレンジ体制の整備について視察した。



船橋市役所 公園緑地課

市営の公園として完成した「ワンパク王国」を姉妹都市であるデンマーク王国の全面協力により、一大テーマパークに整備。利用者ファーストの整備であること及び公園内で抱える課題を、ネットで呼びかけ解決方法を募集する手法が印象に残った。



軒先株式会社

軒先ビジネスや軒先レストランなど店舗の空き時間やビルの軒先など僅かな空間をサービスの対象として展開。資産の有効活用だけでなく、チャレンジしやすい環境の提供により、新たな取組に挑戦してみたい起業家支援にもつながると感じた。

4 班 (ICT分野) 行程: 青森県 → 宮城県 日程: 8/5～8/6

農業従事者の顕著な高齢化や人口減少に伴うあらゆる課題に着目し、農作物の生産から販売までの一環の流れでスマート農業を積極的に推進し、AI・IoTやビックデータを活用した「楽しく・かっこよく・稼げる農業」また、若者が未来の農業に関心を抱くような「ワクワク」する取り組みの模索のため、日本の穀倉地帯とも呼ばれる東北地方の先進事例の視察に行っていました。



株式会社オプティムアグリ・みちのく

農作物の生産・販売の両面から「稼げる農業」を目指し、スマート農業を積極的に推進している。AI・IoTやビックデータを活用し、ゲーム感覚で農業に従事する新たな事業展開に興味深く感じた。



仙台市経済局 農業振興課

農業従事者の減少・高齢化に伴い、農地の荒廃が進んでいる次世代への農地・農業用水等の貴重な資源や技術を共同活動により維持・多面的な機能の発揮を図るため支援を行っている



仙台ターミナルビル株式会社

インターネットクラウドを活用した施設園芸環境制御システムを導入し生産管理を行うことで、ハウス内環境制御の自動化及び最適化、データ化を可能としている。作業の手間や疲労を軽減することができ、農業の「きつい」イメージを払拭する要素になり得ると感じた。

中間報告会・全体報告会（6月から9月）

調査・研究の進捗状況の共有及び他の班員からの情報提供や新たな視点からのアドバイスを目的として、6月から9月にかけて3回の中間報告を開催しました。

3回の報告会を経て、提案内容の深化だけではなく、報告用資料の見せ方や報告方法の向上が見られ、10月の報告会に向け、各班で試行錯誤していきました。



報告会に向けて（9月から10月）

討議も本気モード



メール等を通し、連日のように話し合いを行い、本番に向け、最終調整していきました。

報告会の延期（10月）

当初、政策提案の報告会を10月に開催予定でしたが、令和元年10月12日に発生した令和元年東日本台風の対応業務等を優先するため、開催を延期することとしました。



成果報告会

将来を担う若手職員らしい政策提言！！



5月に研究塾が開講して以降、約8か月間にもおよぶ調査研究、先進地視察を行ってきた成果を各市町村長をはじめとした職員等、総勢 150 名の方々に前に報告し、また、ライブネット配信により広く公表しました。

1班は、「健康福祉分野」、2班は、「関係人口分野」、3班は「地域経済分野」、4班は「ICT分野」をテーマに政策提言を行いました。報告会を迎えるまで、何度もリハーサルを重ね、内容だけでなく、誰が興味を抱くようなプレゼンテーションとなるよう工夫を凝らしました。

代表挨拶【郡山市 丸山 晃史 さん】



研究塾を通して、私たち塾生は持続可能なこおりやま広域圏でありながらも、「ワクワク」する施策について考えて参りました。

また、この報告会は当初 10 月に開催予定でしたが、令和元年東日本台風によりやむなく延期となりました。しかし、その後も災害対応の合間をみなが

ら塾生間で連絡を取り合い、より強い結束が生まれたものと実感しております。

この8か月間を振り返ると、塾生のみんなと同じ目標に向かって議論を重ねる経験は、普段の業務では決して体験することが出来ない貴重なものでした。

私たちは、この経験を糧に、日常の枠にとられない広い視野を持って、それぞれの業務に取組み、広域圏の発展に貢献していきたいと考えております。



報告会開催前



代表あいさつになると、
塾生もいっきに緊張ムード！



質疑・応答



講評による新たな
可能性も



出席者からの盛大な拍手により終了しました。お疲れさまでした。

1班 健康福祉分野

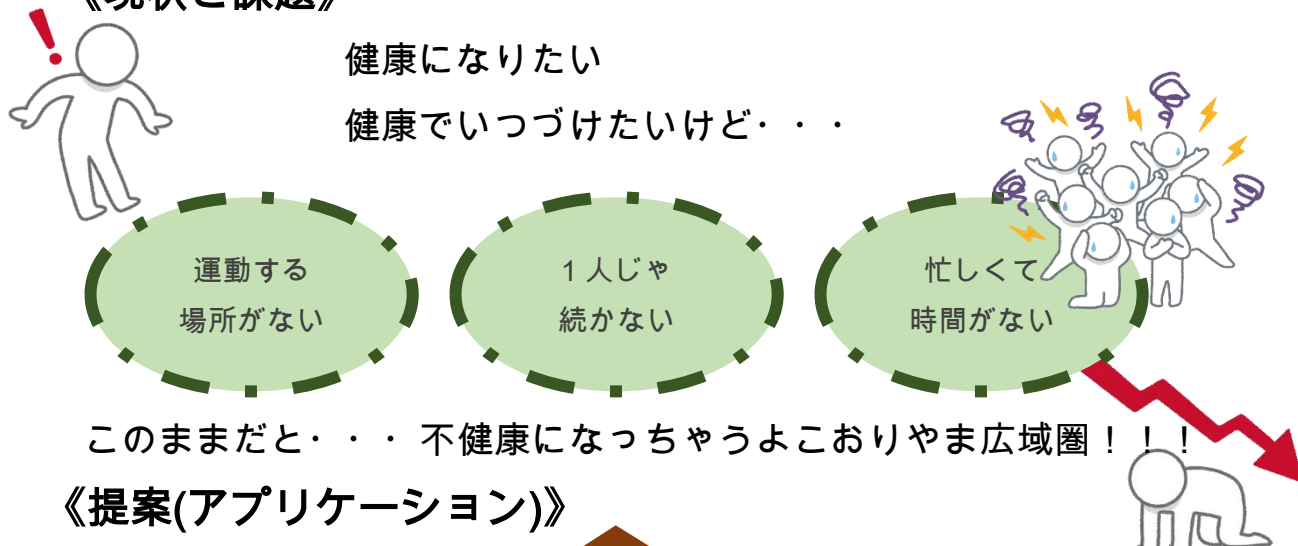
報告用資料等はこちら



研究テーマ

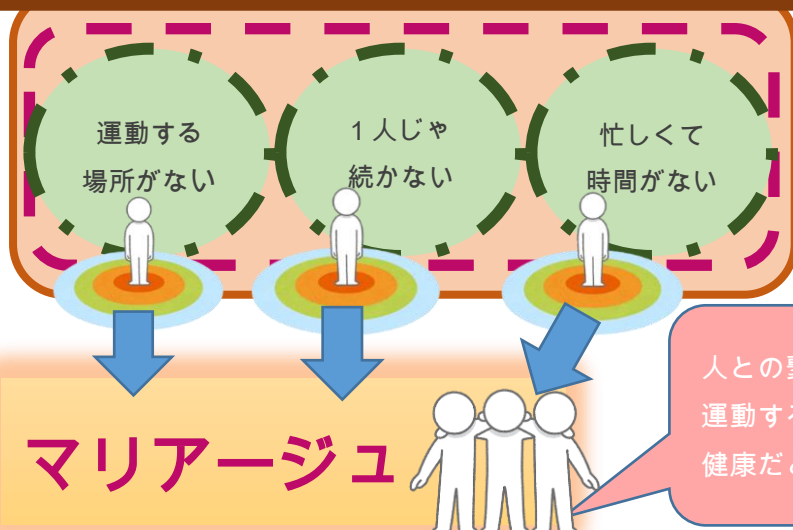
『 ウェルネスとコミュニティのマリアージュ 』

《現状と課題》



こおりやま広域圏 ウェルティ ホーム

人々と健康を繋げる環境整備
「0（ゼロ）次予防」



最終的には・・・

個人的には、健康になる、健康への意識が上がる

広域圏 is Sexy and Beauty !!



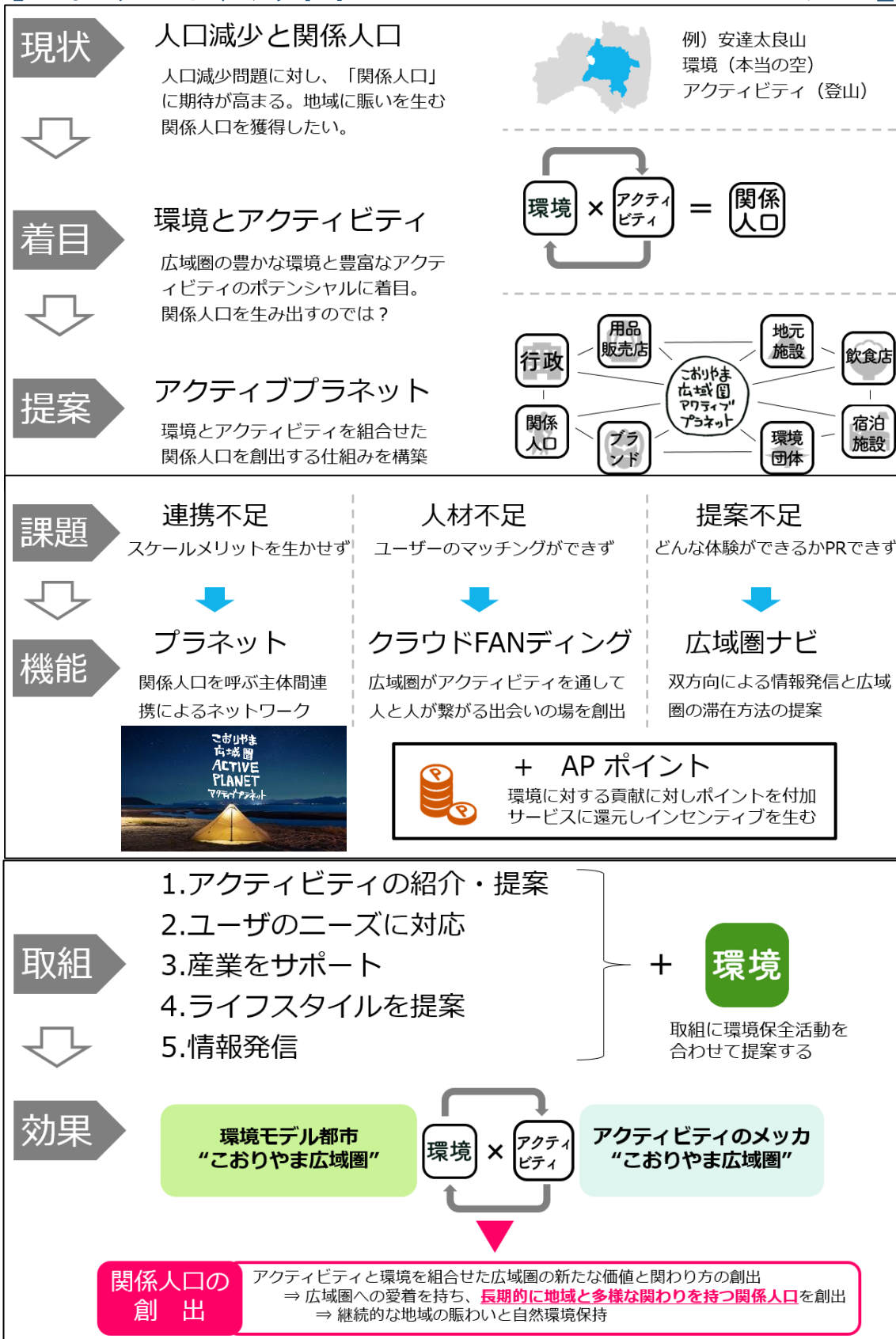
2班 関係人口分野

報告用資料等はこちら



研究テーマ

『こおりやま広域圏 ACTIVE PLANET(アクティブプラネット)』



3班 地域経済分野

報告用資料等はこちら



研究テーマ

『 ないならシェアする広域圏 』

こおりやま広域圏の経済を支えているのは**中小企業**です。

広域圏内の99.8%を占める中小企業は“ない”を実感してい

人手・人材が
少“ない”

経営状況の好転を
実感でき“ない”

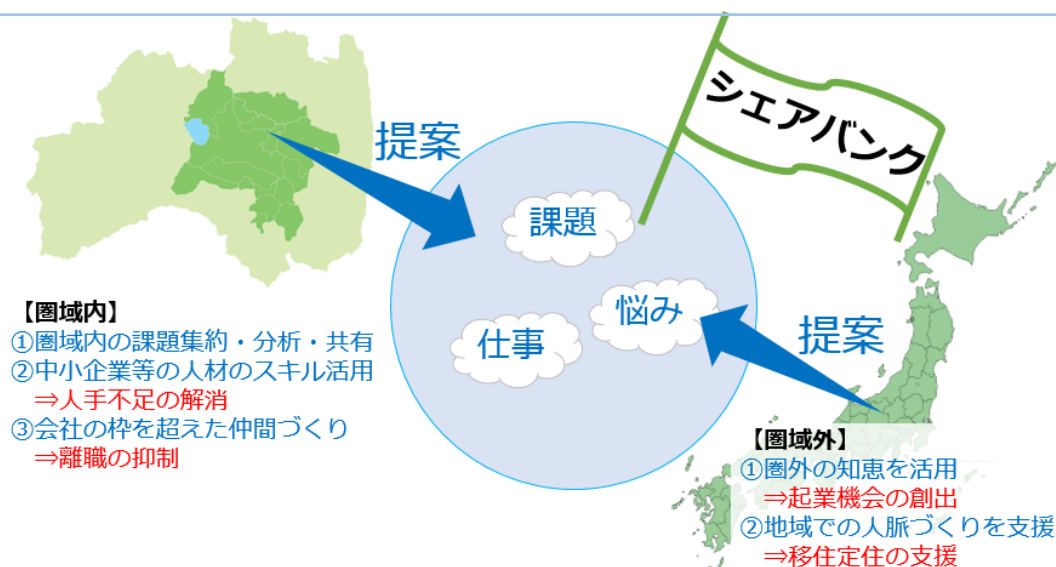
大企業に比べて
人气が“ない”

課題解決のために**シェアリングエコノミー**を活用

シェアリングエコノミーとは、インターネット上のプラットフォームを介して使われていない資産をシェアする新しい経済の動きのことで、都市部では「UBER」や「間借りビジネス」等浸透しているものもある。地方の人手は少ないが、都市部に負けないほど多くの**課題・悩み**があり、それらを広域圏で**シェア**することで課題解決を目指す。

課題解決プラットフォーム**シェアバンク**の構築

シェアバンクとは？AIを用いて課題を集約・分析し、掘り起こされた課題を共有・解決していく**基盤**のことです。多種多様な方に参加いただくことで、様々なニーズの掘り起こしが可能になります。掘り起こされたニーズと**中小企業のニーズ**を**マッチング**させ課題の解決や中小企業の価値の再発掘を行うことで、新たな経済の循環を生み出し、また**中小企業の魅力発信の場**にもなります。さらに、圏域外起業家の起業機会の創出・移住定住の支援にも活用し、未来の広域圏経済を支える人材を育成します。



さあ、**シェア**で持続可能な広域圏へ

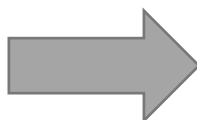


研究テーマ

『農業を「もっと楽しく、もっとかっこよく」』

現状・課題

- ①生産性が低い
- ②働き手がいらない
- ③耕作地を活用したい



農業経営の効率 up をはかる
農業への多彩な関わり方を生み出す
耕作地が持つビッグデータを活用する

提案内容



～こおりやま広域農場の機能～

機能1 農業のこと教えて AI

→ビッグデータの収集とAIによる農業経営アドバイス

機能2 Gクラウドファンディング

→バーチャルで農業を体験し、課金感覚で広域圏へ投資

機能3 Oneday's farmer

→農業に興味がある人が隙間時間で農家のお手伝い

機能4 トランスポーター(運び屋)

→広域圏内の通勤通学者が農産物の運び屋になる

機能5 産業の〇次元化

→広域圏内の生産者・加工業者・販売店・広域圏民等を
様々な形で繋ぐ

農業に対しての多彩な関わり方を創出



効率的な農業経営、農業技術の継続的継承
労働力不足を補う 産業全体の活性化が期待できる



Look Back 研究塾を振り返って

8か月間の研究塾が終わり、今の心境や研究塾期間を振り返っての様々な意見を聞かせてもらいました。

— あらためて今回チャレンジに応募したきっかけを教えてください。



- 仕事で広域圏に出てみたかったため。また、新しいことを考える機会が魅力的だったため参加しました。
- 内部では見えないもの、無いものを外部（他市町村）から吸収したと思ったこと、また、他市町村の職員とのつながりを持って仕事がしたいと思ったため、応募しました。
- 担当業務が完全なデスクワークなので、外に出てリフレッシュしたい気持ちと新しいことにチャレンジしたい気持ちから応募しました。

- 他市町村職員とのつながりをつくり、町のほかにも学びの場が欲しかったからです。
- 魅力ある【ごおりやま広域圏】を考えるために新発想はないか、令和元年の記念すべき年に『チャレンジ』したいと思い応募しました。また先輩職員から、研究成果報告会に至るまでに、様々な経験ができる良い機会であると、背中を押してくれたことも応募したきっかけの一つです。



- 昨年度の参加者が楽しいと言っていたこと、自分の能力を試してみたかったこと、これまでの業務以外の経験を積みたいことから応募しました。

— 実際に研究塾に参加してどうでしたか？

- 他自治体職員との交流を通し、様々な考えや価値観を知ることで刺激を受けました。また、横の繋がりを築くことができたことは今後の公務員人生において大きな財産になると思います。さらに、討議を通し、円滑な行政運営には地域との連携が必要不可欠であることを実感しました。

- この研究塾に参加した目的は外の世界に出て、自分で見るもの・経験するものを取捨選択しながら今後につなげたいと思っていたため、今回の研修はとても有意義なものとなりました。研究塾で得た人脈は、今後のごおりやま広域圏の連携にも生きてくると思います。

- 広域圏のことについて、食べ物と観光地など新しい情報を知る良い機会となりました！！



- データを活用し、見つかった課題に対してどのように政策的なアプローチをしていくか、という考え方は大変勉強になりました。
- 知らなかったことに触れ、学び進められ、プレゼンの場を経験できてよかったです。

- 新しく魅力的な事業を行っている研究機関や民間企業を視察し、自治体にはできないこと、自治体にしかできないことの溝を埋めていくことが、これからの行政に必須だなと感じました！

- 所属団体や年齢、経験も様々な職員と一つのテーマについて議論を交わしていく時間は、新鮮かつ刺激的なものとなりました。
- 先進地視察では、政策研究はもちろんのこと、メンバーとのつながりも多いに深めることができました。いい経験、いい思い出になりました。

— 苦労したことなどはありましたか？

- 班員の異なる意見から研究テーマを決めることと、こおりやま広域圏でできない取り組みを提案することが一番苦労しました。
- 業務との兼ね合いで制約が多い中、それぞれの意見を一つに集約することが大変でした。
- 提案内容の実現性と独創性のバランス取りが難しかったです。
- 今まで全く関わったことのない分野について、考えていくことは大変でした。
- スケジュール管理は苦労しましたが、視察に行けたのは良かったです。

- 広域各所から毎週集まるため、討議の日程や場所を調整するのに苦労しましたが、テレビ会議システムを活用することによって、時間を有効に使うことができました。
- 考えた取組みが既に国や他の自治体で事業化されていることが多く、どこにもない新しい事業を考え出すことの難しさを実感しました。多角的に様々なことを考える必要があると感じました。



— この経験をどのように生かしていきたいですか？

- 自分達のアイデアをプレゼンする際のスライド作成や要点整理の作業では、いかに相手にわかりやすく伝えるかについて活動を通して得られました。
- 広域圏の職員との交流により視野を広げられ、先進地視察を通して「0次予防」という新たな概念を知ることができた。今後も「新発想」の視点を持ちながら、業務に取り組みたいです。
- 自分自身では持ち得ていないさまざまなスキルや考え方を学ぶことで、自分の成長に繋がられました。この経験を魅力ある郡山広域圏の発展に貢献していきたいと思います。
- 数字を用いた統計・グラフなどは非常に勉強になったので、今後は数字を用いた資料作りを心掛け上司に説明ができるよう努力していきたいです。
- ICTについて「便利になるのはわかるが今不便していないので特に必要無い」という考えだったが、研究塾を通して、様々な課題がICTによって解決できることを知り、自分の今までの業務を振り返り、ICTによる改善を考えることができるようになりました。

— 最後に一言！！

- 率直に今思えば楽しかったです。終わってほっとしている気持ちもありますが、寂しいです！！
- こおりやま広域圏内全市町村の職員で構成できれば、更に多様な意見が出てよりよい研究塾になると思います。
- 同じ年代の仲間から多くの刺激を受けられたし、非常に有意義な8か月でした！！！！
- 他自治体の職員とのつながりができたことは、一生の財産になるだろう。
- 討議が思うように前進しなかったが、班員の力がうまくかみ合い、発表に向けて作業をしていく時は楽しいと思えました。今回のメンバーとまた一緒に仕事ができればいいな。
- 笑いが絶えないめちゃくちゃに楽しい研究塾でした！ ありがとうございます！



— 皆さん、ありがとうございました。

あらためて研究塾生の皆さん大変お疲れ様でした。勤務時間中や時間外に多方面からの参加、また、令和元年東日本台風による報告会の延期で大変だったと思います。職場の理解があっただけだったと思いますので、この研究塾を通して成長

できたことを今後に生かしていただければ幸いです。また、この研究塾を通しての『つながり』を大切に、こおりやま広域圏の発展に寄与できるような人材になることを期待しています。



☆この『つながり』を大切に☆

Next Challenge 2020 年度予告

Coming
Soom!!

提案だけで終わらせない！2020 年度は、実践までしっかりサポートします！！
あなたの提案が、全国の先進事例になっちゃうかも！！

これまでの研究塾では、塾生による調査研究及び提案内容を、塾長を始めとした多くの職員に報告し、当研究塾を終えておりました。

そこで、2020 年度は、より提案内容を事業化に結びつけるために、これまで調査研究による提案報告会(10 月)の後に、『トライアル編』を導入し、提案の一部を試行的に実施する「2段階方式」で研究塾を開講します！

▼2020 年度研究塾スケジュール(案)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
・塾生募集 (4 中旬)	・開講式 (5 中旬)		先進地視察			●報告会(10 月) (リサーチ編)				●報告会(2 月) (トライアル編)	
		・全体会 (6 月)		・中間報告会 (8 月)	・全体会 (9 月)						
リサーチ編 調査・研究						トライアル編 試行(チャレンジ)					

5 月から広域的課題解決に向け、調査研究や先進地視察を通し、10 月に提案報告

リサーチ編における政策提案内容の具現化又は事業化に向け、研究塾生により関係所属と情報交換しつつ、提案の一部を試行的に実施(試行予算 35 万円程度/班)

上記の様に、来年度は提案がより事業化に繋がります。

ちょっと面白そうだなと思う方やおこりやま広域圏で事業を新規創出してみたい方は、ぜひ当研究塾に入塾してみませんか？みなさんの『チャレンジ』をお待ちしております！

2020 年度塾生は4 月より募集を開始します！ 乞うご期待！！

取組み状況や成果報告会について、多くのメディアに取り上げられました。

0-23-9697

研究塾生名簿

▼1班 健康福祉分野

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	財務部契約課	主事	遠藤 駿介
2	郡山市	都市整備部区画整理課	技査	古河 與一
3	郡山市	教育総務部生涯学習課	主事	小栗 ひとみ
4	本宮市	保健福祉部高齢福祉課	主査	白坂 勘
5	鏡石町	教育課	主査	塚原 健司
6	三春町	財務課	主事	岩崎 友也

▼2班 関係人口分野

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	総務部防災危機管理課	主事	阿部 晃貴
2	郡山市	農林部農業政策課	主事	佐藤 裕太
3	郡山市	建設交通部建築課	技査	下山 覚行
4	田村市	教育部教育総務課	主事	櫻田 香澄
5	三春町	住民課	主事	渡部 薫

▼3班 地域経済分野

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	総務部行政マネジメント課	主査	増子 晶彦
2	郡山市	税務部資産税課	主事	浜尾 優希
3	郡山市	生活環境部3R推進課	主事	遠藤 沙織
4	須賀川市	産業部商工労政課	主事	宮澤 遼太
5	田村市	総務部財政課	主事	玄葉 裕樹
6	三春町	税務課	主事	冨塚 俊樹

▼4班 I C T分野

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	市民部セーフコミュニティ課	主査	丸山 晃史
2	郡山市	文化スポーツ部国際政策課	主査	小川 俊介
3	郡山市	保健福祉部障がい福祉課	主事	渡邊 真理恵
4	田村市	保健福祉部社会福祉課	主事	橋本 啓貴
5	本宮市	教育部国際交流課	副主査	宇田 寛之
6	二本松市	総務部秘書政策課	主任主事	立川 慶一

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱

(設置)

第1条 住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾(以下「研究塾」という。)を設置する。

(調査研究事項等)

第2条 研究塾は、広域連携により効果的に解決すべき課題について、次に掲げる事項を調査研究し、その成果を郡山市長及びこおりやま広域圏各市町村長に報告する。

- (1) 住民福祉の増進につながる取組み
- (2) 自主的・自立的なまちづくりのための取組み
- (3) 先導性・モデル性のある取組み
- (4) こおりやま広域圏の発展に資する取組み
- (5) ICT 利活用による取組み

(組織)

第3条 研究塾は、公募または各自治体の所属の長が推薦する研究塾生をもって構成する。

- 2 研究塾に代表及び副代表1人を置き、研究塾生の互選によって定める。
- 3 代表は、研究塾を代表し、会務を総理する。
- 4 副代表は、代表を補佐し、代表に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、代表が招集し、代表が会議の座長となる。

- 2 代表は、特に必要があると認めるときは、研究塾生以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(研究班)

第5条 研究塾に調査研究事項に応じ、専門的に調査研究を行うため、政策開発部長が定める数の研究班を置く。

- 2 研究塾生は、いずれかの研究班の班員となる。
- 3 研究班に班長及び副班長1人を置き、班員の互選によって定める。
- 4 班長は、研究班を代表し、その事務を掌理する。
- 5 副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 研究班の会議は、班長が招集し、班長が会議の座長となる。
- 7 班長は、特に必要があると認めるときは、会議に班員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。
- 8 班長は、関係課等の長に、調査研究上必要な資料等の提供を求めることができる。

(各課の協力)

第6条 課等の長は、研究塾における調査研究の過程において、必要な説明、資料等の提供を求められたときは、速やかにこれに応じるよう努めなければならない。

(庶務)

第7条 研究塾の庶務は、政策開発部政策開発課において処理する。

(委任)第8条 この要綱に定めるもののほか、研究塾の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年8月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月25日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年7月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年6月11日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾2019政策提言報告書

令和2年3月発行

編集・発行 郡山市政策開発部政策開発課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

T E L 024-924-2021

F A X 024-924-2822

E - m a i l seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp



本市ウェブサイトからも
ご確認いただけます。